備える 3.11から　第92回　想定シリーズ❶ 緊急地震速報

「備える 3・11から」では、東日本大震災の被害の実態や中部地方の防災の取り組みについて取材を重ねてきました。今回からあらためて、名古屋大減災連携研究センター（福和伸夫センター長）の協力により、日ごろの備えや災害時の避難方法を具体的に考えていきます。皆さんの家庭や住んでいる地域に置き換えやすいよう、毎回、架空の家族が登場するシミュレーション形式でお伝えします。初回は、震災の「始まり」を知らせる緊急地震速報です。（今村太郎）

備江さん一家の「その時」

名古屋市郊外でマンションを購入したばかりの備江さん一家。会社員の吉夫さん（四）と主婦の須美子さん（四）夫婦、建設作業員の長男進さん（二四）、大学生の次男守さん（二一）、高校生の長女光さん（一六）の五人暮らしだ。二〇XX年×月×日午後四時、南海トラフ地震が発生した時、それぞれ自宅や職場、外出先にいた。

主婦・須美子さん 「震度4」に油断

リビングで洗濯物を畳んでいた須美子さん。「ジャーン」という鈍い警報音があることを思い出すと、文字盤には「震度4 10秒後」と表示されていた。

須美子さんが「本当に来るんだ。でも、震度4なら大丈夫かな」と思った瞬間、ガタガタと小さな揺れが来た。机の下には隠れず、非常用品を入れたリュックを取ろうと立ち上がった時、「ドーン、ドーン」と激しい揺れ。近くの食器棚が倒れ、須美子さんは肩を打った。

「これが震度4？」。予想震度は目安にすぎず、さらに大地震では小さな揺れの後に大きな揺れが起きると知らなかった二人。地震が収まり、外に出ようとしたが、リビングのドアが変形して動かない。守さんがガすぐくドアをこじ開けた。「危なかったあ…」。須美子さんは痛む肩を押さえながら、気付けば全身汗だくになっていた。

会社員・吉夫さん 運転中…大慌て

営業マンの吉夫さんは社用車で外回り中、携帯電話からブーツ、ブーツ、ブーツ」と聞き慣れない音を聞いた。

「すいません。ラジオで緊急地震速報って聞いて、車を止めて。画面を見れば「緊急地震速報」の文字。「わ、危ない。車を止めなきゃ」。急ブレーキをかけた時、「ガシャーン！」。後方の車に追突された。

「しまった」と焦ると、後ろの運転手が血相を変えて車を降りてきた。

「すいません。ラジオで緊急地震速報って聞いて、車を止める場所を探して前をよく見てませんでした（メモ③）」。お互い、あわてていたと分かった。

長男・進さん 素早く危険回避

長男の進さんは、名古屋市郊外のマンション建設現場で、足場に乗って十階外壁の溶接工事をしていた時、現場のスピーカーから流れる緊急地震速報を聞いた。

「やばい！　どうすんだっけ」。一瞬ろたえたが、会社で最近行った訓練を思い出した（メモ④）。「確か、速報から揺れが来るまで二十秒ほどしかないはず」。不安定な足場を離れ建物に移り、溶接機の電源を切って身をかがめた。

地上の作業員らも足場や積み上げられた資材から走って離れていた。

長女・光さん 様子見で出遅れ

長女の光さんは下校後、友人とデパートに。最新ファッションをチェックしていた時、かばんに入れたスマートフォンが緊急地震速報を知らせた。友人と顔を見合わせる光さん。

「これ、マジ？」「他の客が避難したら逃げよっか。」周りの客も顔を見合わせるだけ。館内放送は「地震が発生しました。耐震構造ですので、あわてて外に出ず、従業員の指示で避難してください」と告げた。「もしかして本当にやばい？」。何人かの客が動き始め、光さんもエスカレーターへ向かおうとした時、震度4の揺れが来た。

緊急地震速報の受信機（メモ②）があることを思い出すと、文字盤には「震度4　10秒後」と表示されていた。

須美子さんが「本当に来るんだ。でも、震度4なら大丈夫かな」と思った瞬間、ガタガタと小さな揺れが来た。机の下には隠れず、非常用品を入れたリュックを取ろうと立ち上がった時、「ドーン、ドーン」と激しい揺れ。近くの食器棚が倒れ、須美子さんは肩を打った。

「これが震度4？」。予想震度は目安にすぎず、さらに大地震では小さな揺れの後に大きな揺れが起きると知らなかった二人。地震が収まり、外に出ようとしたが、リビングのドアが変形して動かない。守さんがガすぐくドアをこじ開けた。「危なかったあ…」。須美子さんは痛む肩を押さえながら、気付けば全身汗だくになっていた。

緊急地震速報が伝える震度や揺れる地域の予想は、限界があるんです。多くの地震は地下深くで岩盤同士が合わさる断層がバランスを保てなくなり、ずれることで起きます。最初にずれた場所を「震源」とし、震源との距離で各地の震度を予想します。

ですが、南海トラフは静岡県駿河湾沖から四国沖まで約七百キロにわたって延びる断層。四国沖で最初にずれて、それをもとに備江さん宅の受信機で「震度4」と予想されましたが、断層が東海地方へずれ続ければ、震源が広がり、近づいてきます。おのずと最初にずれた地点より東側の震度が大きくなります。

断層のずれる範囲が百キロを超える大地震の場合、各地の予想震度が外れやすくなります。須美子さんのように、地震速報を過信せずに、速報が出たら必ず大地震が来ると思って身構えてください。

教えて、センセイ！

名古屋大減災連携研究センター協力企画

大地震想定し身構えて

鷲谷 威（さぎたに たけし）教授（地殻変動学）

速報を知らせる携帯の警報音は、着信音やテレビの警報音とは違います。携帯各社のホームページなどで試聴できますので、吉夫さんのようにあわてずに行動できるように、ぜひ聴いておきましょう。

緊急地震速報は、東海道新幹線に一九九二年から設置された「ユレダス」など、公共交通や産業界で開発の動きが先行しました。地震までの十秒や二十秒でも、進さんのように、迅速に行動すれば大幅に被害を減らせます。

光さんが地震発生時にいたデパートなど、全国チェーンの商業施設では地震発生時のアナウンスがマニュアル化されているでしょう。ただ、店員を問いたら間の行動に関係なく、慌てやすい棚から離れるなど率先して身を守る行動をとるべきです。その上で店側の指示に従いましょう。

◇

「備える」は毎月第1、第3月曜掲載です。次回は19日。想定テーマは「マグニチュード（M）」です。

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています